



菓子職人の実技を興味深く見つめる生徒たち

小「働く」ことについて考えよう 小川中学校職業講話

6月19日、小川中学校で「職業講話」が行われ、全校生徒が18の分科会に分かれて、働く目的や意義について学びました。

この日の講師となったのは、元オリンピック日本代表選手や保育士・美容師・自動車整備士・アナウンサー・公務員など18人。講師の中には小川中学校の卒業生もいて、資格取得の方法や仕事上の工夫などを先輩から後輩に伝授するシーンもありました。

元・ロッソ熊本（現・ロアッソ熊本）選手で現・鎮西高等学校サッカー部監督の濱田照夫さんは、大津高等学校在学中に後輩だった巻誠一郎選手（小川中学校卒、ジェフユナイテッド市原・千葉所属）の思い出を交えて、職業としてのプロスポーツ選手について語りました。

また、河江小学校教諭の須藤美代さんが講師を務めた「小学校教員」の分科会では、生徒が模擬授業を行い、「教える」立場の難しさと面白さを体験していました。

市と県宇城地域振興局が 共同清掃作業

6月5日、市と県宇城地域振興局の職員約300人が、昼休みを利用して市役所周辺や県宇城総合庁舎周辺の道路で共同清掃作業を実施しました。

6月の県環境月間に合わせた初の試みで、職員たちは約3キロにわたって歩道の空き缶やたばこの吸い殻などを拾いました。

その後、ドライバーに「ごみのポイ捨て禁止」のチラシとマイバッグ100個を配り、環境保護を呼び掛けました。



昼休みを利用しての市と県の共同清掃作業

松橋中学校で演奏披露 音楽を通じて国際交流



セントジョセフ校によるみごとな演奏

6月12日、シンガポールのセントジョセフ校ミラリーバンド（吹奏楽部）の71人が音楽を通じた国際交流のため、松橋中学校（林秀文校長）を訪れました。

これは、シンガポールからの修学旅行誘致を働きかけている熊本県の取り組みによるもので、前日から秀岳館高等学校での和太鼓を通じた交流や平成音楽大学・出田学長による音楽指導を体験。

交流会では、まず松橋中学校の生徒が琴や三味線による「荒城の月」や、吹奏楽による「五木の子守唄」などを演奏し、続いてセントジョセフ校ミラリーバンドが返礼の吹奏楽を数曲披露。会場を埋めた同校の生徒・教職員約900人から盛大な拍手が送られていました。

平成21年度実施めざし 独自の教育プラン策定

宇城市では、市の教育振興に関する施策を総合的にまとめる「市教育プラン」の策定に取り組まれます。5月27日、その具体的施策を協議する有識者会議と専門部会が発足しました。

内容は、①就学前教育②学校教育③スポーツ・生涯学習④文化振興の4本を柱とし、子育て支援や学力の育成、教職員の資質・能力の向上、地域文化の継承などについて体系的な施策をとりまとめます。

有識者会議は、荻茂寿太郎・県立大理事長を座長に大学教授ら4人で、専門部会は4つ。それぞれ有識者会議メンバーや文科省職員、市公募で選ばれた市民ら5人ずつで構成しています。

両組織とも毎月1回程度会議を開き、8月の中間答申を経て11月に最終答申を阿曾田清市長に提出する予定です。



当日は、メンバーの委嘱状交付式もありました

河花いっぱいのに 河江小でコスモスの苗植え



楽しそうに苗植えをする児童たち

6月10日、小川町の砂川沿いのコスモス街道と河江小学校校庭内花壇で、全児童385人がコスモスの苗を植えました。

商工観光課の職員から植え付けの説明を聞いた後、児童たちは慣れた手つきで楽しそうに苗を植えました。

児童たちは、「宇城市を花いっぱいのまちにしたい。そして今日の体験を機に、花や自然などを大切にしていきたい」と話していました。

コスモスは9月下旬には満開になるということです。楽しみです。

食アメニティコンテストで 風の館・塩屋が感謝状受賞

風の館・塩屋（小川町）が平成19年度の食アメニティコンテスト（農林水産省主催）で感謝状を受賞しました。

「食アメニティを考える会」（浜美枝会長）では、「女性で広げる地産地消」をテーマに、農山漁村の女性グループ・個人の自主的な努力で地域の特産物を活用した起業活動を焦点にあてコンテストを実施しています。

郷土料理をふるまうだけでなく、食材を使ったレシピを紹介し、地元の味を若い世代にしっかりと伝える努力が評価され、今回の受賞につながりました。おめでとうございます。



富士田シゲ子さんら5人が市長へ報告